

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいむ		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 11月 1日		～ 令和 6 年 12月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 11月 1日		～ 令和 6 年 12月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	看護師や作業療法士など、他職種連携が取れる	作業療法士による専門的支援実施計画に沿って、個別支援計画書からより細部に配慮した支援の提供を目指している 看護師によるバイタルチェックや発作時の対応など、医療面のサポートを行っている	定期的にチームカンファレンスを開催することでチームとして情報交換、共有を図っていく。また、支援の内容や振り返りの内容を共有できるようなツールを今後検討し、活用していくことでより良い支援を目指す
2	医療機関(小児リハビリ)、児童発達支援、相談支援事業所が併設している。	利用前より併設事業を利用している方が多く、担当からの聞き取りやカルテなどからの情報を共有できるケースが多い。また、相談支援専門員も身近にあり、リアルタイムで情報を共有できるよう努めている	今後も必要に応じて情報共有を行っていく。また、何かあった際にはスムーズな情報提供ができるよう各事業において情報の整理、準備しておく
3	個別で過ごせるスペースがある	気持ちが落ち着かない際やクールダウンが必要な場面にて、職員見守りのもと個室への誘導を行っている。周囲からの刺激の少ない環境で過ごすことで気持ちの切り替えがスムーズに行える場面も見られる	スヌーズレンを楽しめる部屋や宿題、課題に取り組むための周囲から刺激の少ない環境設定など、個々のニーズに合わせた工夫を行っていく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族やきょうだい、地域との交流の機会が少ない	家族やきょうだい、地域と交流できるイベントや行事の開催、機会が少ない	利用者が楽しめるだけでなく、家族同士や地域とも広く交流できるイベント開催や取り組みの実施に向けて企画検討していく。また、外出活動を通して地域と交流できる機会も増やしていく
2	非常時に向けた訓練や取り組みの様子が家族に伝わっていない	訓練の様子や取り組みの詳細が月間予定表のみでは家族に十分に伝えられていない	毎月発行している月間予定表に加え、防災新聞などを活用して訓練の様子などの情報をわかりやすく発信する。また、非常時のマニュアルを作成し、何かあった際に見やすい所に掲示するなど備えておく
3	家族に対して家族支援プログラムや家族などの参加できる研修の機会や情報提供が十分ではない	職員の家族支援プログラムに対する知識や技術が十分ではない。研修や勉強会などの機会や情報提供が十分ではなく、広く周知できていない	職員の専門的知識や技術の拡充、専門性向上につながる研修や勉強会などに参加する。また、家族が参加できる研修や勉強会などの情報提供を行っていくとともに、情報の提供方法や企画なども検討していく